

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト

シーニックバイウェイ北海道推進協議会は、シーニックバイウェイ北海道の「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」の活動において、他の模範となり、将来への発展性が高く評価できる活動を選出・表彰する取り組みとして「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」を2008年度から実施しています。表彰は、活動団体の投票で選出する【活動団体賞】、有識者委員の審査を経て選出する3つの【部門賞】及び各部門賞から最も優秀な活動を【最優秀賞】として決定・表彰しています。



※詳細は、シーニックバイウェイ北海道推進協議会HPをご覧ください。

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2023 2024年12月9日 第22回推進協議会にて決定



〈最優秀賞〉〈美しい景観づくり部門賞〉

サスティナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

平成30年度からルート内の全エリアで景観診断を再度実施し、改善不能箇所や新たな課題箇所の抽出、評価を行いました。新しい景観づくりマスタープランでは、評価結果を元に各景観課題箇所を優先度別に4つに分類し、対応ルールを明記するとともに、フォローアップ調査や次回景観診断などの時系列的なルールも定め、持続的に景観を改善する仕組みとしました。結果として、令和5年度までに18箇所で景観改善が実施されています。



景観改善の例



改善前



改善後



改善前



改善後

◀上：景観診断の様子（中標津町）
下：優先対策検討箇所の清掃活動の実施（釧路市）

地域
部門賞

〈活力ある地域づくり部門賞〉

～地域との連携・企業との連携 そして国際的サイクルエリアを目指して～ どうなんサイクルツーリズム推進事業 どうなん追分シーニックバイウェイルート

交通過疎地域の道路の活用・SDGs・観光に着目し、ルート最大の魅力である歴史・文化をもっと楽しんでもらうために広域のサイクルツーリズムを2018年より本格的に進めてきました。官民連携での交流人口の拡大・地域経済の活性化やサイクリングの環境整備を目的とした際に、エリア連携の他に地域活動団体である函館バスや道南いさりび鉄道との試行や老舗和菓子店との企業連携を行ってきました。そして、2023年度北海道サイクルルートの登録がなされ、2024年9月にこれらの繋がりを実践的に活かせる国際大会「アイアンマンジャパンみなみ北海道大会」開催の実現に至りました。



左上：サイクルトレインの試行（道南いさりび鉄道）
左下：地域企業との連携（五勝手屋羊羹）
右：チャリ旅みなみ北海道ツアーの様子

観光
部門賞

〈魅力ある観光空間づくり部門賞〉

『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと 歴史文化の伝承 天塩川シーニックバイウェイ

当ルートのメインリバー・天塩川を軸に、地域の人たちが地域の歴史・文化を学ぶきっかけになること、次世代の人たちへの伝承、松浦武四郎ファンへの働きかけにより当該地域のファンを増やしていくことを目的に、＜天塩川と武四郎＞による“歴史”を主軸としたヒストリックな取組をスタートしました。三重県松阪市で開催の「第29回松浦武四郎まつり」にて、北海道遺産と連携したPRブースを設け、シーニックバイウェイの取組の紹介や北海道のドライブ観光などのPRを行いました。雨天にも関わらず、北海道に興味関心のある人、住んでいた人、天塩川でカヌーをしたことがある人など、様々な想いを持って立ち寄ってくださいました。松阪市民の武四郎に対する想いや知識も豊富で、北海道との繋がりを感じられる良い時間となり、今後も引き続き取り組んでいきたいと思っています。



左：武四郎まつり会場での様子 右：音威子府村の活動団体nociw（ノチウ）のブースでは、天塩川流域の特産品を販売 左下：石狩鍋のような具材に甘い味噌の「武四郎鍋」

地域
部門賞

〈活力ある地域づくり部門賞〉

流雪溝活性化プロジェクト 萌える天北オロロンルート

苫前町古丹別地区流雪溝は、高齢化や空き家・空き店舗の増加等から流雪溝利用率が低下し、沿道に積もった雪山により日常生活・道路交通に支障をきたす状況です。平成27年度より雪処理の担い手確保に向け、「流雪溝インフラツーリズム」の商品化を試行し、交流・関係人口の拡大のアプローチから課題解決を試みてきました。コロナ禍を経て、現在は町内の共助力の底上げを図るとともに、同様の課題を抱える増毛町との地域間共助を推し進め、流雪溝の活性化を通して、住み続けたい地域づくりを両町と目指しています！



上：一斉投雪作業の様子 左下：苫前町古丹別地区 右下：増毛町

活動
団体賞

〈活動団体賞〉

～“流氷を見ながらドライブを” 地域のおもてなし活動を継続中～ R334ガードレールの雪かきボランティア活動 東オホーツクシーニックバイウェイ

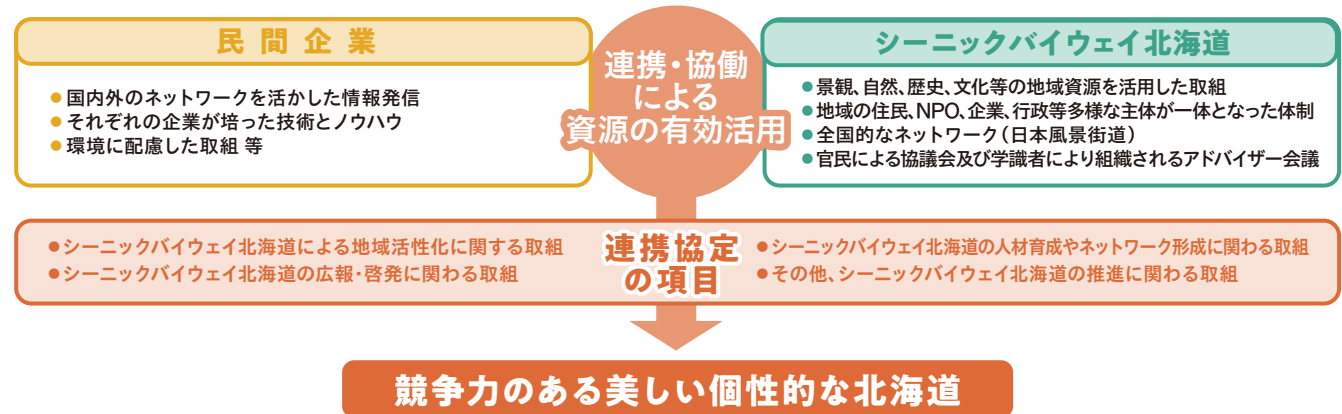
冬期の知床を訪れる観光客や来訪者の皆さんに、ドライブする車窓から流氷景観を楽しんでもらおうという目的で、道路管理者や沿道の地域団体、民間企業等が連携した、おもてなしの取り組みです。通常の歩道除雪では取りきれないガードレールに残った雪を、ボランティアで集まった皆さんがスコップなどで除雪し、貴重な観光資源でもある国道からの流氷景観を確保します。令和4年には「手づくり郷土賞（大賞部門）」も受賞しました。



雪かき作業の様子

民間企業等との包括連携協定

シーニックバイウェイ北海道では、競争力のある美しく個性的な北海道を実現していくことを目的として、民間団体・企業等と、北海道固有の景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源等地域資源を最大限活用し、双方の、資源を有効活用した効果的連携活動として、連携に関する包括協定制度を平成24年度より開始しました。



●包括連携協定企業との連携取組事例

(株)トヨタレンタリース札幌
〈平成24年12月1日締結〉

- シーニックドライブマップ、ScenicByway(ドライブ観光情報紙)での企業広告
- トヨタレンタリース札幌 札幌駅前店、新千歳空港プラザ店でのシーニック展示ブース設置 他



写真: 正面受付カウンター上部壁面への景観パネル設置(新千歳空港プラザ店)

Follow Me Japan Pte.Ltd.
〈平成24年12月1日締結〉

- シーニックルートを巡るドライブツアー企画
- シーニックルートを巡るサイクリングツアー企画
- シンガポール旅行商談フェアでのPR



写真: シーニックルートを巡るサイクリングツアーを企画(支笏洞爺ニセコルート)

北海道コカ・コーラボトリング(株)
〈平成24年12月1日締結〉

- 景観に配慮したオリジナルデザイン自動販売機の設置協力
- ルートの清掃活動や植樹活動への協力
- ルート主催スタンプラリーへの賞品提供



写真: 寄付型自動販売機の設置し、ルートのポスターを展示

(株)グランビスタホテル&リゾート札幌 グランドホテル
〈平成24年12月1日締結〉

- ホテル館内でのシーニックバイウェイ北海道PR展示(継続事業/通年)



(株)デンソーソリューションズ北海道支社
〈平成25年6月24日締結〉

- シーニックバイウェイ北海道広報ツール(HP、冊子など)へマップコードの無償提供
- シーニックバイウェイの広報ツールへMapQRを提供



写真: 店内にシーニックバイウェイ北海道等のチラシを設置

鶴雅グループ(株) 阿寒グランドホテル
〈平成25年6月24日締結〉

- 鶴雅グループ企業のパン・デ・パンでの『釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ』の情報を発信



写真: 店内にシーニックバイウェイ北海道等のチラシを設置

(株)北海道日本ハムファイターズ
〈平成29年10月24日締結〉

- エスコンフィールドHOKKAIDO内「シーニックバイウェイ北海道パネル展」
- 北海道日本ハムファイターズ、道の駅、シーニックバイウェイ北海道の特別連携企画として、「ファイターズコラボ道の駅」で限定コラボグッズの販売、フォトパネルの設置等を実施



写真左: シーニックバイウェイ北海道パネル展 写真右: 限定コラボグッズ

(株)知床グランドホテル
〈平成30年11月5日締結〉

- 国道334号線沿いの雪かきボランティアや夏季道路景観作りのための花植えボランティア
- 地域住民や観光客の交流ポイントを維持するための活動の賞品提供



写真: 国道沿い花壇の花植えボランティア

クリプトン・フューチャー・メディア(株)
〈令和3年7月15日締結〉

- 北海道全179市町村公認の地域密着メディア「Domingo」のHPやスマホアプリから継続的な情報発信を行う



写真: Domingoはごちろ

SOMPO ひまわり生命保険(株)
〈令和5年12月12日締結〉

- シーニックバイウェイ北海道の景観保全活動(除草、除雪、清掃)等への人的支援
- 「千歳ウエルカム花ロード」の除草活動への人的支援
- 「ひまわりまつり」の来場者への記念撮影サービスなどの運営を支援



大和リース(株)北海道支店
〈令和6年12月9日締結〉

- 景観・観光空間づくりや地域づくりの活動支援
- 広報・PR等における会場提供
- 「認定NPO法人まちづくりスポット恵み野」と協働した地域課題の解決



写真: シーニックナイトの会場提供・活動参加

(一社)北海道信用金庫協会
〈平成30年11月5日締結〉

- 「TEPPEN-RIDE2019」への協賛(サイクルツーリズム)
- 「スイス視察(スイス・モビリティとDMO調査研究)」、「スイスの観光に学ぶシンポジウム」への職員派遣等の支援



写真: 「TEPPEN-RIDE2019」サポートカーや休憩ポイントなど協賛企業のパネル掲示

北海道地区「道の駅」連絡会
〈平成30年11月5日締結〉

- 支援センター発行「シーニックドライブマップ」に北海道地区「道の駅」連絡会監修のもと、全道の道の駅情報を掲載。全道の道の駅にて販売
- 「道の駅スタンプラリー」において、シーニックバイウェイ北海道及びシーニックバイウェイ「秀逸な道」を紹介



写真左上・右上・左下: スタンプラリー2024シーニックドライブマップ2024年度版

特定非営利活動法人 北海道遺産協議会
〈令和5年3月13日締結〉

- 「秀逸な道」展「秋」@チ・カ・ホでのコラボ
- ドライブ観光情報誌「Scenic Byway」vol.30 寄稿



写真: パネル展におけるシーニックバイウェイの展示やパンフレット配布

北海道エネルギー(株)
〈令和5年12月12日締結〉

- 各SS店舗内(道内85カ所)設置サイネージによるシーニックバイウェイ北海道のルートや取組紹介
- ドライブMAP内でのシーニックバイウェイ北海道のルートや取組紹介
- 北海道エネルギー公式SNSアカウント上でのシーニックバイウェイ北海道に関する情報発信



※詳細は、シーニックバイウェイ北海道推進協議会HPをご覧ください。



シーニックデッキ

地域の風景をゆったりと楽しんでもらうために、沿道に設置したデッキ(視点場)です。ルートおすすめの美しい景観を心ゆくまで堪能できます。

シーニックカフェ

地元ならではの魅力を味わえるシーニックカフェ。ルート活動団体主催の期間限定のカフェや、ルートおすすめの飲食店などです。



WELCOME

地元おススメの 景色や食を楽しむなら

シーニックデッキ・シーニックカフェへ!

★北海道内各地のシーニックカフェ・デッキ等の情報はここから⇒

シーニックカフェには、プレートが設置されています

ビューポイント パーキング

ふと立ち止まりたくなるような北海道らしい酪農風景、田園風景、そして花畑など景観に優れた駐車場です。



★ビューポイントパーキングの情報は、北海道開発局HPをご覧ください。

シーニックバイウェイ情報拠点

ルート内の情報をチェックしたり、地域のパンフレットを入手できます。

どうなん・追分シーニックバイウェイルート 道の駅 みそぎの郷きこない (木古内町)



シーニックの森づくり

●シーニックバイウェイ北海道における環境配慮の取り組み

「シーニックの森づくり」は、シーニックバイウェイ北海道の取り組みを通して、CO₂吸収源となる森づくりを行うもので、観光客の皆さんをはじめ、地域住民、NPO、関係機関が連携して森づくりを行っています。現在、全道には4箇所のシーニックの森があります。

●シーニックの森づくりが目指すもの

▶訪れる方との出会いを大切に育てたい

樹木は成長するほどCO₂の吸収量が飛躍的に増加します。観光客の皆様が植樹した木は、シーニックの森として成長していきます。自分が植樹した木に愛情を持ち、成長を現地に訪れて見てもらう。そんなつながりも育てていきたいと思っています。

▶環境に優しい新しい旅の形を一緒に育てたい

多くの人に地域の宝を見てもらうためには、車の利用が必要となりCO₂をどうしても排出してしまいます。多くの人に森づくりに参加してもらい、楽しみながら環境にも優しい、新しい旅の形を広めていきたいと思っています。

▶地球環境のことを考えるきっかけにしてほしい

成長が早いといわれているトドマツは30年間で約12mの高さに成長しますが、固定できるCO₂の貯蔵量は1本あたりガソリン約70Lにすぎません。日々の生活でのCO₂削減を考えるきっかけになってほしいと思っています。

●シーニックの森の取り組み

みんなで育てるシーニックの森

シーニックバイウェイ北海道の各ルートでは、景観づくり、自然復元、体験学習や交流等を目的としてCO₂吸収源となる森づくりを行っています。

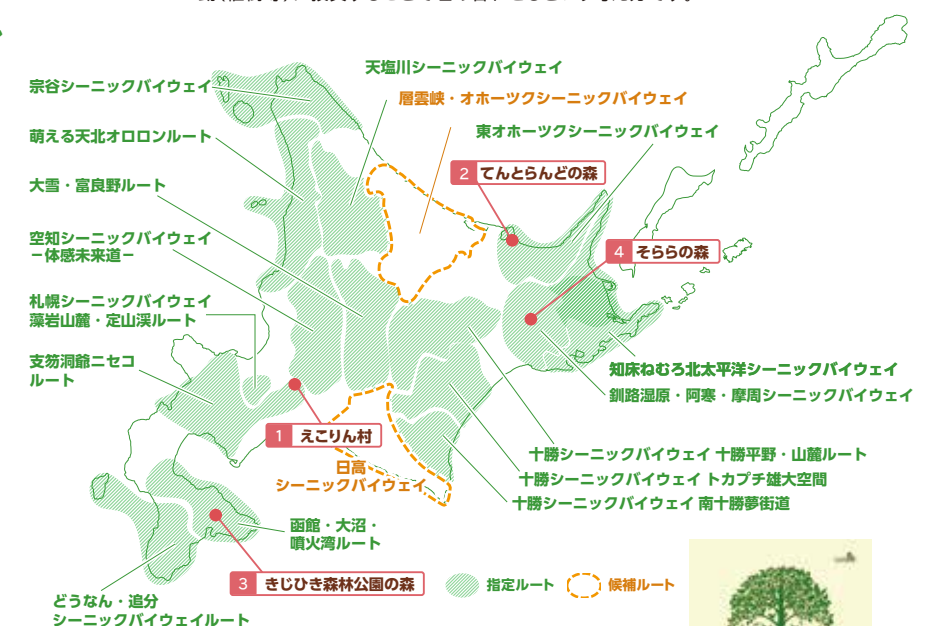
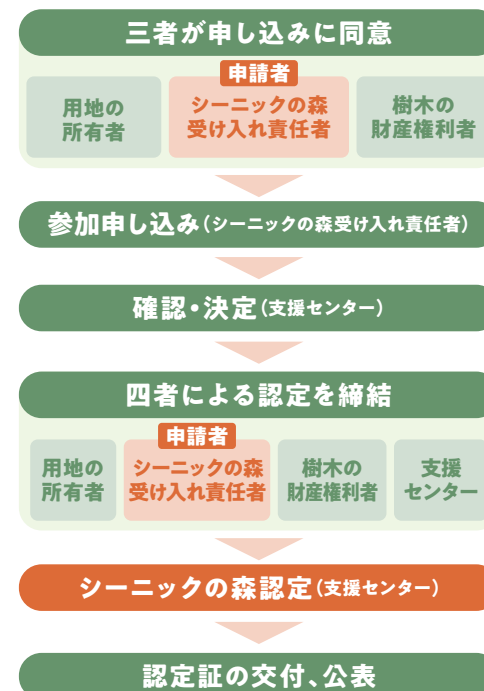


シーニックバイウェイ・カーボンオフセット

シーニックの森の取組みのひとつとして、ドライブ観光などで排出されたCO₂をオフセットするために、観光客が費用を負担して、シーニックの森に植樹するシーニックバイウェイ・カーボンオフセット※を行っています。

※カーボンオフセットとは、日常生活や経済活動において排出されるCO₂等の温室効果ガスを、削減努力を行った上で、それでも排出される量に見合った削減活動(植樹等)に投資することで埋め合わせするという考え方です。

●シーニックの森認定までの流れ



現在、4つの「シーニックの森」があります

シーニックの森の認定、カーボンオフセットの認証等の対応は、(一社)シーニックバイウェイ支援センターが行っています。

シーニックの森認定証▶



(一社)シーニックバイウェイ支援センター(略称:リソースセンター)は、シーニックバイウェイの理念を浸透させるための広報活動を行います。また、活動の活性化に不可欠な民間と行政との連携を図り、これらの連携を専門的な観点から支援する組織として、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりに貢献します。

●シーニックバイウェイ支援センターの目的

日本におけるシーニックバイウェイの持続的な推進・普及・発展を支援することを目的としています。

●シーニックバイウェイ支援センターの事業内容

1. シーニックバイウェイに関わる情報共有・発信・連絡
2. シーニックバイウェイに関わる各種調査・研究
3. シーニックバイウェイに関わる広報・プロモーション
4. シーニックバイウェイに関わる人材育成・教育・資格認定
5. 各種団体の連携を促進するためのコーディネート
6. 前各号に掲げる事業に付帯または関連する事業

●主な業務

- ・ホームページの運用
- ・メーリングリストの運用
- ・各種出版物の発行
- ・広報誌の発行
- ・シーニックフォト倶楽部の運営
- ・勉強会の開催
- ・ビジネスモデルの開発
- ・ロゴマークの管理委託
- ・刊行物等の制作・販売
- ・視察の企画・受け入れ
- ・米国視察企画
- ・シーニックドライブマップ
- ・「シーニックの森」の認証

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌北ビル
【電話】011-708-0429 【FAX】011-708-0430
【E-mail】info-sc@scenicbyway.jp
【URL】http://www.scenicbyway.jp/



シーニックバイウェイ北海道は、
2024年度グッドデザイン賞を受賞しました！
The following design is awarded GOOD DESIGN AWARD 2024

《審査委員の評価》 訪れる側としては、とすると高速道路だけで移動してしまう広大な北海道を楽しむ上で心強いガイドとなる取り組み。そして沿道に住む人の側としては、景観を作る、沿道環境の整備という視座を得ることで地元への意識や関わり方も変わる取り組み。まさに「景観」「観光」「地域」という三つの要素が連動し相乗効果で改善されていく、長年続く素晴らしいエコシステムデザイン、取り組みである。



グッドデザイン賞受賞
ギャラリー



[参考]北海道
開発局
報道発表

左:2024年度グッドデザイン賞受賞展の様子 右:賞状



支援センター
ホームページ

左:北海道のよりみちドライブ情報誌「Scenic Byway vol.34」
右:「シーニックドライブマップ2025年度版」

シーニックバイウェイ北海道

Q&A

どうして「シーニックバイウェイ北海道」に取り組むことになったのですか？

北海道をドライブする個人型の旅行が人気となっています。アンケート調査によると、その一番の目的は「景観を楽しむこと」。このため、景観をもっとよくしたり、守ったりすることが、これからの北海道観光を振興し、地域を元気にするために重要な取り組みあると考えました。そしてこの取り組みを進めるにあたって、行政が参加しながらも、地域の方々が自らの発案により行うことが、成功させるためには必要と考えました。このため、平成15年、16年に地域の方々と行政が連携して様々な取り組みを試行的に実施し、その成果を踏まえ、平成17年3月より「シーニックバイウェイ北海道」として本格的にスタートしたところです。

なぜ「シーニックバイウェイ」という名称なんですか？

「シーニックバイウェイプログラム」はアメリカで先行的に取り組まれている制度ですが、これを参考にしつつも、北海道にあった仕組みとしたため、アメリカのものとは異なる制度となりました。しかし「政府が進めるビジット・ジャパンの一環として外国人観光客へのPRをしやすいこと」「日本語の概念にない取り組みであること」「寄り道(バイウェイ)という概念がよいこと」などの理由から、学識経験者や観光の専門家からなる委員会にて「シーニックバイウェイ北海道」と命名されました。なお、現在、全国を対象とした「日本風景街道」という取り組みが広がっているところです。

日本風景街道とは？

「日本風景街道(シーニックバイウェイ・ジャ

パン)」は、「地域の資源」と「活動する人たち」、「活動内容」、「活動の場」から構成されるもので、それらを総称して「風景街道」といいます。令和6年2月現在、全国で合計145ルートが登録され、その中にシーニックバイウェイ北海道のルート(指定ルートのみ)も含まれています。日本風景街道は、全国の様々な活動を通して地域活性化、観光振興を推進しています。

地域の方の発案が必要というのはどうしてですか？

沿道の景観を作っているのは、農業や林業、街中の商店街など地域の方々の営みです。地域の方々が元気に暮らし、経済的にも豊かになり、地域生活の営みが維持されることが、そのまま沿道の風景の保全につながると考えられます。これら「景観」「観光」「地域」という三つの要素を(道)を通して連携させ、地域を元気にして望ましいと考えます。

中心となっているのは誰ですか？

活動の中心は地域の方々です。この取り組みは「みち」をきっかけとして、地域の方々の主体的な取り組みを「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」という総合的な組織でバックアップするものです。「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」は、北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道観光振興機構などの道内の経済団体、北海道や国の出先機関などの行政機関等で構成され、事務局はこの取り組みを始めた国土交通省の地方支分部局である北海道開発局が担当しています。

支援組織の「シーニックバイウェイ支援センター」って何ですか？

シーニックバイウェイにかかわる情報共有、発信、

連絡、及び広報、プロモーションと各ルートの活動へのアドバイスを行うため平成17年7月に設立されました。シーニックバイウェイ北海道推進協議会の実施要綱・第17条で定める基本方針に基づき、支援組織として指定されています。

この取り組みに参加するとどんな支援があるのですか？

指定ルートでは、「行政連絡会議」が設置され、関係機関により、各種活動への参加、連携した活動などが行われるとともに「シーニックバイウェイ支援センター」によって、広報・プロモーションなどが積極的に行われます。また、候補ルートでは、指定ルートの申請に必要な「ルート運営活動計画」を地域の方々が作成するにあたり、ワークショップの開催や参加など運営計画策定のお手伝いを関係機関が行います。

どうして「秀逸な道」に取り組むことになったのですか？

平成28年3月に閣議決定された「第8期北海道総合開発計画」では、北海道において、アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」を目指すこととしており、このため、各地域における景観等の地域資源を世界に通用するレベルまで磨き上げる取組を促進することとしています。これを踏まえ、地域景観の保全・活用により「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」を総合的に推進する「シーニックバイウェイ北海道」の取組の一環として、魅力的な景観等を有する道を地域の観光資源として活用する、シーニックバイウェイ「秀逸な道」の取組を開始することとしました。

ルートの紹介



Scenic Byway HOKKAIDO

走りたい道がある。会いたい人がいる。私だけの風景がある。
シーニックバイウェイ北海道。

雄大な北海道。

その景観をより美しく、地域をもっと元気に、そして観光空間には更なる魅力を。

シーニックバイウェイ北海道は、みちが繋ぐ美しい北海道づくりを目指し、活動しています。

まだ知らない、北海道のみちへ。いつもの風景から、まだ見ぬ景色へ。

走りたい道に、きっと出会えるはず。

支笏洞爺ニセコルート

01

美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽
国立公園の2つの国立・国定公園を
走る支笏洞爺ニセコルートは美しい
湖と秀峰、火山に出逢える地域です。
支笏洞爺ニセコルートは3つのエリア
で構成されています。



国道453号(千歳市支笏湖)



えにわシーニックナイト(ウエルカム北海道エリア)



清掃活動 1008453(とうやよごさん)キャンペーン(洞爺湖エリア)



学官地域連携によるビューポイント魅力アッププロジェクト
(ニセコ羊蹄エリア)